

福祉生活病院常任委員会資料

(令和4年11月21日)

【 件 名 】

- 新型コロナウイルス感染症への対応について
(新型コロナウイルス感染症対策推進課) . . . 2
- 鳥取県陽性者コンタクトセンター登録者の個人情報漏洩と
対応等について
(新型コロナウイルス感染症対策推進課) . . . 4
- 新型コロナウイルスワクチン接種に向けた取組状況について
(新型コロナウイルスワクチン接種推進チーム) . . . 5

新型コロナウイルス感染症対策本部事務局

新型コロナウイルス感染症への対応について

令和4年11月21日
新型コロナウイルス感染症対策推進課

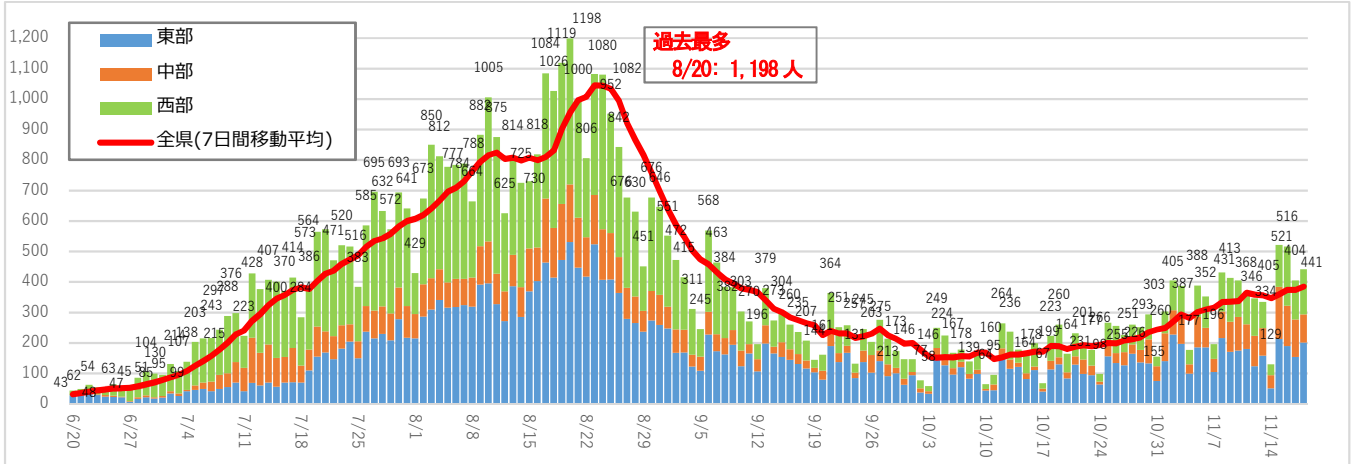
1 県内における感染者の発生状況

(1) 第7波以降の感染者数（令和4年6月20日～11月18日、発表日ベース）

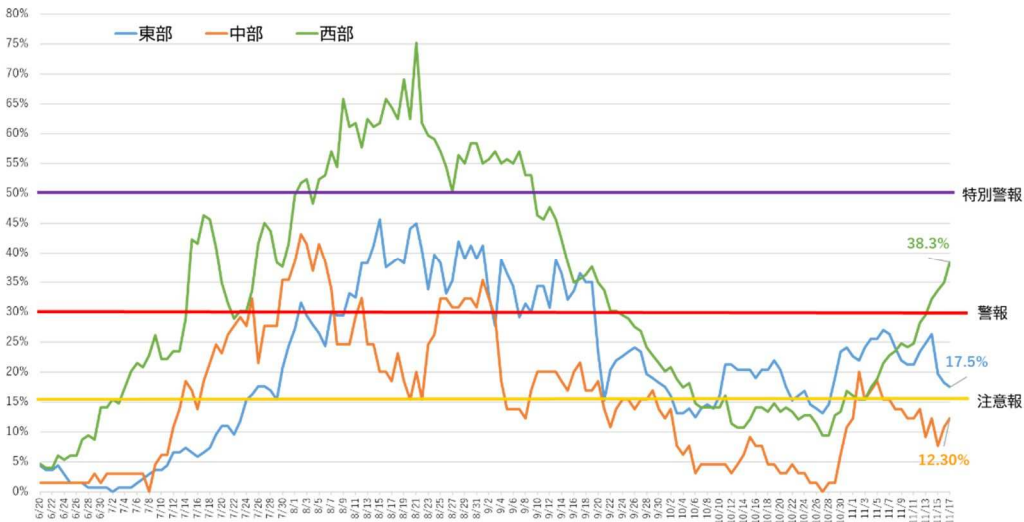
59,305名（鳥取市保健所25,071名・倉吉保健所9,600名・米子保健所24,634名）

（参考）累計感染者数 75,155名（鳥取市保健所31,630名・倉吉保健所11,518名・米子保健所32,007名）

<新規感染者数の推移>



<病床使用率の推移>



(2) 第7波以降のクラスター発生状況（令和4年11月18日現在、発表日ベース）

区分	鳥取市	倉吉	米子	分類計	(参考) 累計発生件数
学校等	31	21	31	83 (22%)	122 (23%)
保育所等	26	15	36	77 (21%)	108 (20%)
高齢者施設等	50	24	53	127 (34%)	152 (29%)
事業所	17	7	29	53 (14%)	72 (13%)
医療機関	5	7	5	17 (5%)	25 (5%)
飲食店	0	0	1	1 (1%)	20 (4%)
その他	3	2	6	11 (3%)	31 (6%)
管内計	132 (36%)	76 (20%)	161 (44%)	369 (100%)	530 (100%)

(3) 第7波以降死亡者数（令和4年11月18日現在、発表日ベース）※括弧内は累計死亡者数

死亡	うち新型コロナウイルス感染症を死因とする死亡
77 (97)	23 (31)

2 第8波における本県のレベル移行判断目安の変更（令和4年11月18日～）

国がレベル分類の見直しを行ったことから、その趣旨を踏まえ、県のレベル分類の見直しとあわせて各種警報・指標の発令基準の見直しを行った。

本県のレベル移行判断目安<新指標>			鳥取県版 新型コロナ警報 発令基準 【圏域ごと】	感染拡大情報 発令基準 【圏域ごと】
レベル	感染状況及び医療状況【政府分科会】	移行判断目安【全県で判定】 ※コロナ検査件数・インフル流行状況も考慮し、総合判断		
1 (感染小康期)	○感染者が低位推移又は徐々に増加 ○外来医療・入院医療ともに負荷は小さい		注意報 病床使用率 概ね15%超	感染拡大注意情報
2 (感染拡大初期)	○感染者が急速に増加し始める ○診療・検査医療機関の患者数が急増、医療負荷が高まり始める ○救急外来受診者数、病床使用率も上昇傾向	■新規陽性者数 10万人あたり 300人超/週 ■最大確保病床使用率 概ね30%超	警報 病床使用率 概ね30%超	■新規陽性者数 10万人あたり 200人超/週
3 (医療負荷増大期)	○医療負荷を増大させる数の感染者が発生 ○外来医療・入院医療ともに医療負荷が増大し、ハイリスク患者の速やかな受診が困難となったり、救急搬送困難事例が急増	■新規陽性者数 10万人あたり 1,000人超/週 ■最大確保病床使用率 重症病床使用率 概ね50%超	特別警報 病床使用率 概ね50%超	感染拡大警戒情報
4 (医療機能不全期)	○膨大な数の感染者が発生 ○発熱外来や救急外来で対応しきれず、救急搬送困難事例も把握できなくなるなど、外来医療全体がひっ迫し、機能不全状態 ○多数の医療従事者が欠勤し、入院医療がひっ迫	■新規陽性者数 10万人あたり 2,000人超/週 ■最大確保病床使用率 重症病床使用率 概ね80%超	医療非常事態警報 病床使用率 概ね75%超	■新規陽性者数 10万人あたり 500人超/週

3 各種要請・警報の発令状況（令和4年11月18日現在）

(1) 特措法第24条第9項による協力要請

区 域 鳥取県全域

期 間 令和4年10月15日から11月30日まで

要請内容

- ・距離が確保できない場合や会話を行う場合など場面に応じたマスクの着用
- ・感染リスクを下げるため、密を避けて人と人との距離の確保（2m程度）
- ・寒くてもエアロゾルを意識した換気・手洗い・手指消毒の徹底
- ・大人数を避け、黙食・マスク会食の徹底
- ・イベントの前後も含めて大騒ぎしないなど感染拡大を起こさない行動の徹底
- ・県外往来や大きなイベント参加の際は積極的に無料検査を受検
- ・出かけた先でも混雑する場所や感染リスクの高い場所を回避
- ・体調が悪ければ無理に登校・出勤せず、医療機関を受診
- ・新型コロナとインフルエンザの同時流行に備えてワクチン接種で発症・重症化リスクの低減

(2) 鳥取県版新型コロナ警報（令和4年11月18日現在）

地域	発令状況	備考
東部	注意報	10月13日～
中部	注意報	11月5日～
西部	警報	11月17日～

(3) 新規陽性者の動向を踏まえた注意喚起情報（令和4年11月18日現在）

地域	発出状況	備考
東部	感染拡大注意情報	11月18日～
中部	感染拡大警戒情報	11月18日～
西部	感染拡大注意情報	11月18日～

(4) 本県のレベル移行判断目安の指標状況（令和4年11月18日現在）

○本県のレベル：レベル2

○判断指標（算定基準日：令和4年11月17日、直近1週間：令和4年11月11日～17日）

指標	数値	算式
新規陽性者数(対人口10万人/週)	486.4人	2,692人/55.3万人×10万人
確保病床使用率(※)	25.4%	89床/351床
重症者用確保病床使用率	0%	0床/47床

※他県で確認された陽性者が使用する数を含む場合があります。

鳥取県陽性者コンタクトセンター登録者の個人情報の漏洩と対応等について

令和4年11月21日

新型コロナウイルス感染症対策推進課

鳥取県陽性者コンタクトセンター（以下「県コンタクトセンター」という）が、医療機関に対して送付した案内文書（チラシ）の中に、県コンタクトセンター登録者（1名分）の健康観察記録にかかる文書が混入し、個人情報が漏洩する事案が発生しました。このことを受け、漏洩した個人情報の本人に対し謝罪と経緯の説明を行いました。

今後、同様の事案が起きないように再発防止策を講じて、個人情報の適切な管理に努めます。

1 事案の概要

11月10日（木）、医療機関向けに案内文書（チラシ）の発送を行った際、個人情報が記載された県コンタクトセンター登録者（1名分）の健康観察記録が誤って混入しており、県内の医療機関（1か所）に個人情報が漏洩した。

(1) 事実判明日

令和4年11月14日（月）午前11時45分頃

(2) 発覚の経緯

11月10日（木）：県コンタクトセンターから医療機関向けに案内文書（チラシ）を発送

11月14日（月）：医療機関が案内文書の整理作業を行っていた際に個人情報の混入を確認。

同医療機関から県に連絡があり、事案が発覚

(3) 流出した個人情報

陽性者の氏名、陽性判明日、在宅療養開始日、在宅療養終了予定日、生年月日、年齢、住所、電話番号、健康状態（1日分）

(4) 原因等

- ・案内文書（チラシ）を県コンタクトセンター内の印刷機で印刷。同じ印刷機では、適宜、登録者の健康観察記録等の印刷も行っていたが、担当者が印刷物の中身を十分に確認していなかったため混入に気づくことができなかった。

(5) 当課の対応

- ・11月14日（月）午後2時45分頃、本人へ経緯を説明して謝罪し、今後の再発防止に努めることをお伝えし、了解を得た。
- ・誤送付先の医療機関に対して、経緯を説明するとともに、個人情報のシュレッダーによる処分を依頼し、処分いただいた。

2 再発防止策

本業務に従事する担当職員（動員職員も含む）に対して本事案を周知。個人情報を印刷する際は、速やかに印刷物を回収に行き印刷機に放置しない、印刷したはずの印刷物がなかった場合は印刷履歴を印刷機で確認し他の者に印刷物が紛れていないか確認するなど、改めて個人情報の適正な取り扱いを行うよう注意喚起を行った。

新型コロナウイルスワクチン接種に向けた取組状況について

令和4年11月21日
新型コロナウイルスワクチン接種推進チーム

1 本県の接種状況

(1) 総接種回数の内訳及び接種率 (11月16日現在)

(全国)

全年代	1回接種者	2回接種者	3回接種者	4回接種者
接種回数	102,660,898	101,367,794	83,899,898	45,303,035
人口当たり接種率	81.53%	80.50%	66.63%	35.98%

(鳥取県)

全年代	1回接種者	2回接種者	3回接種者	4回接種者
接種回数	446,735	441,596	364,877	214,162
人口当たり接種率	80.99%	80.06%	66.15%	38.82%

※1・2回目の医療従事者の接種数は令和3年8月2日までにV-SYSに登録された数

※一般接種及び3回目以降の接種数はVRSに登録された数を計上

※3・4回目接種の接種回数は、オミクロン株対応ワクチン接種の回数を含む。

3回目接種の年齢階級別接種率(都道府県別)の実績(11/13時点)

	12歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
全国	42.3%	53.6%	57.0%	64.8%	78.7%	86.0%	85.8%	91.4%	93.2%	93.7%	88.5%
鳥取県	42.7%	55.1%	54.3%	62.4%	76.0%	82.6%	85.2%	91.2%	89.2%	89.8%	91.7%

※実績は、VRS(本資料更新日の公表値)により集計

※年齢階級不明は、接種記録から除いている

(2) オミクロン株対応ワクチンの接種状況

(11月16日現在)

全国	
接種回数	14,427,445
人口当たり接種率	11.46%
鳥取県	
接種回数	72,038
人口当たり接種率	13.06%

※令和4年9月26日報告分より本欄を追加

※オミクロン株対応ワクチン接種数は3、4、5回目のいずれかの接種券で接種した回数を全て含む

(3) 小児(5～11歳)の接種状況

(11月16日現在)

全国	1回目	2回目	3回目
接種回数	1,688,035	1,614,472	332,031
人口当たり接種率	23.07%	22.06%	4.54%
鳥取県	1回目	2回目	3回目
接種回数	8,661	8,368	1,927
人口当たり接種率	26.13%	25.25%	5.81%

(4) 乳幼児(生後6か月～4歳)の接種状況

(11月16日現在)

全国	1回目
接種回数	8,651
人口当たり接種率	0.22%
鳥取県	1回目
接種回数	41
人口当たり接種率	0.23%

2 オミクロン株対応ワクチン（2価ワクチン）について

(1) 本県における接種

希望者への年内の接種完了に向けて、県内で個別接種や集団接種で、最大 16.7 万回分(5,572 回分/日)の受入れ体制を準備するとともに、接種促進策として、10 月 27 日から「ワクチン接種促進大作戦」として、県営会場で接種した方へのプレゼントや、インフルエンザワクチンとの同時接種が可能な県営会場を開設している。

11 月 12 日からは一部の県営会場での接種対象年齢を 12 歳以上に拡充（※その他会場も順次実施）した他、ワクチンバスを増便し地区公民館や企業、大学に加え、新たに高校へも派遣（※接種対象年齢拡充 18 歳以上→12 歳以上）。その他、県 HP、新聞、テレビ、各種メディアによる広報の強化、駅前等街頭での PR も実施している。

(2) ワクチンの供給量について

＜11 月 18 日時点で判明している本県へのワクチンの種類別配分＞

配送予定時期	ファイザー		モデルナ		合計	
	接種可能数	回	接種可能数	回	接種可能数	回
R4.9/19～	43,290(BA.1)	回	4,300(BA.1)	回	47,590	回
R4.9/26～	43,290(BA.1)	回	4,250(BA.1)	回	47,540	回
R4.10/3～	33,930(BA.1)	回	4,300(BA.1)	回	38,230	回
R4.10/10～	22,230(BA.4/5)	回	8,550(BA.1)	回	30,780	回
R4.10/17～	81,900(BA.4/5)	回	—	回	90,450	回
R4.10/24～			8,550(BA.1)	回		
R4.10/31～	80,730(BA.4/5)	回	8,550(BA.1)	回	89,280	回
R4.11/7～			—	回		
R4.11/14～	81,900(BA.4/5)	回	—	回	81,900	回
R4.11/21～			—	回		
R4.11/28～	—	回	8,600(BA.4/5)	回	8,600	回
R4.12/5～	—	回				
R4.12/12～	—	回	4,250(BA.4/5)	回	4,250	回
合計	387,270	回	51,350	回	438,620	回

3 乳幼児接種について

(1) 概要

鳥取市を皮切りに、11 月 1 日から県内での接種が開始された。県内の対象者は 18,174 人であり、対象者が速やかに接種できるよう、小児医療機関の少ない地域をカバーするため県内圏域単位（東部の麒麟のまち圏域等）で、小児医療機関での個別接種による体制を構築している。

併せて、県 HP 特設 WEB サイトの開設、接種促進のための小児科医が解説する 60 秒 TVCM を放映している他、有効性・安全性について理解を深めるチラシを作成し、小児医療機関や保育施設等に配布している。

さらに、県独自の支援として、乳幼児接種を実施する小児医療機関が、接種のための特別な体制を確保する際の費用や一定数以上のワクチン接種を実施した場合の助成などの財政支援を行うことにより、大人（12 歳以上）や小児（5 歳～11 歳）の接種に比べてより慎重な対応が求められる乳幼児接種体制の強化を図る。

また、接種可能小児科医療機関のワクチン接種日時や、乳幼児接種の必要性等について理解を深める動画情報を、特設サイトやメーリングリスト等で発信するとともに、乳幼児接種ワンストップ相談窓口で案内し、保護者の情報収集を支援し、乳幼児接種の促進を図る。

(2) ワクチンの供給量について

配送予定時期	接種可能数	
R4.10/24～ R4.10/31～	15,900	回
R4.11/7～ R4.11/14～	6,900	回
R4.11/21～ R4.11/28～	9,100	回
合計	31,900	回

4 予防接種法に基づく医療機関からの副反応疑い報告状況について（11月18日時点）
 前回報告時（10月12日）から副反応疑い報告件数の増加はなし。

ワクチンの種類	推定接種回数	副反応疑い件数	うち死亡報告数		うちアナフィラキシー報告数	
			件数	割合	件数	割合
ファイザー社 (従来株)	1,095,414	71	11	0.001%	17	0.002%
		0.0065%				
ファイザー社 (BA.1対応)	26,514	0	0	0.000%	0	0.000%
		0.000%				
ファイザー社 (BA.4-5対応)	34,587	0	0	0.000%	0	0.000%
		0.000%				
小児ファイザー	18,956	0	0	0.000%	0	0.000%
		0.0000%				
乳幼児ファイザー	41	0	0	0.000%	0	0.000%
		0.0000%				
モデルナ社 (従来株)	299,264	5	0	0.000%	0	0.000%
		0.0017%				
モデルナ社 (BA.1)	10,937	0	0	0.000%	0	0.000%
		0.0000%				
アストラゼネカ社	63	0	0	0.000%	0	0.000%
		0.0000%				
武田社 (ノババックス)	459	0	0	0.000%	0	0.000%
		0.0000%				